|--|

演習 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

あさましかりしか。 遠くゐて、「にくし。さのたまはば、今日は立たじ。」とのたまひしこそ、いかで聞きつけ給ふらんと、 そかに。いひ入るるを、その人だにえ聞きつけで、「なにとか、なにとか。」と耳をかたぶけ来るに、 「この中将に扇の絵のこと言へ。」と®ささめけば、「いま、かの君の立ち給ひなんにを。」と、いとみ 職の御曹司の西面に住みしころ、大殿の新中将、宿直にてものなどいひしに、そばにある人の、と、 まんぎうし にしまりて (これ) はいる (これ) はいめ (これ) 大蔵卿ばかり耳とき人はなし。まことに蚊のまつげの落つるをも聞きつけ給ひつべうこそありしか。

_	
「沈草子	
_	
第一	
_	
丘六	
	
よ h	
10	
()	

3	2		ア	ı
─ 作 者は、	推量	1	作者	
	の助		_	線①~④の主語
蔵卿	詞		清少納言	(4) (2)
という	べし	\smile	言	主語
人物	推量の助動詞「べし」のウ音便を、	2	1	(動作主)
をどの	音便を		大蔵卿	主
よう			卿	ばだれ
大蔵卿という人物をどのように評しているか。	文章中から抜き出して書け。	\smile	ウ	はだれか。次から選び、
してい	² ら抜		職の	いから
るか。	き 出 1	③ —	職の御曹司	選び、
現代	て書			記号で答えよ。
語で	け。		エ	で答
現代語で簡単に書け。		\smile	そばにある人	えよ。
書け。		4	ある	
Ü			人	
		\smile		

1 15点×4 20点×1

20点×1

3 点 /100

氏	名

演習 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

とこそ仰せられけり。まことにこそのさはおはしますめれ。内大臣殿をだに近くて見奉り給はぬよ。 ものも 宣 はぬに、この入道殿は、いと若くおはします御身にて、「2影をば踏まで、 らやましくもあるかな。 ければ、中の関白殿・粟田殿などは、「げに、のさもとや思すらむ」と、恥づかしげなる御けしきにて、 四条大納言の、かく何事もすぐれ、めでたくおはしますを、大入道殿、「いかでか、 わが子どもの、 影だに踏むべくもあらぬこそ、 口惜しけれ」と申させ給ひ つらをやは踏まぬ かからむ。う

線①・②の指示語は、何を指しているか。文章中から抜き出して書け。	
ら抜き出して書け。	(「大鏡」道長伝より

2

1

- 線2「影をば踏まで、つらをやは踏まぬ」の意味として、最も適当なものを次から選び、

記

2

線1「影だに踏むべくもあらぬ」を現代語に訳せ。

ア 影法師は踏まないが、上位に立って面目はつぶしてやる。

号で答えよ。

影法師は踏んでやるし、上位に立って面目もつぶしてやる。

ウ 影法師は踏まないし、 上位に立って面目をつぶすこともしない。

エ 影法師は踏めないし、 上位に立って面目をつぶすこともできないだろう。

25点×2 20占~1

_	20 出 🗸 I
3	20点×1
得	点
	/
	/100

高校ゼミ サポート s e l e c t II

古文の読解 確認テスト

氏	名

演習 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

そのことに候ふ。目くるまき、枝危ふきほどは、己が恐れはべれば申さず。過ちは、安き所になりて、 どは言ふこともなくて、降るるときに、軒長ばかりになりて、過ちすな。心して降りよと言葉をかけ 必ずつかまつることに候ふと言ふ。 はべりしを、かばかりになりては、飛び降るとも降りなむ。いかにかくは言ふぞと申しはべりしかば、 高名の木登りといひし男、人を掟てて、高き木に登せて、梢を切らせしに、いと危ふく見えしほ

(「徒然草」
第
一〇九段より)

_ 3				2	1
ア 四面楚歌 イ 刻苦勉励 ウ 油断大敵 エ 愛別離苦この文章の趣旨として最も適当な四字熟語を次から選び、記号で答えよ。	初め	初め	初め 「	文章中から会話文になっている部分を三か所探し、	【
エ 愛別離苦から選び、記号で答えよ。	終わり	終わり	終わり	し、その初めと終わりの五字を抜き出して書け。	(動作主)を、文章中から抜き出して書け。

20点	X	1
20点	×	3
00.1		-

2 3 20点×1 点

1

/100

|--|

演
習
次の文章を読んで、
あとの問いに答えよ

ごろに5聞こえさせ給ひけり。 世給へりけれ。ありがたき御かたち人になむ。」と。奏しけるに、まことにやと御心とまりて、ねん 代の宮仕へに伝はりぬるに、え見るかつけぬを、后の宮の姫宮こそ、いとよう覚えて生ひ出でのさ しましし時より見奉り、今もほの見。奉りて、「亡せる給ひにし御息所の御かたちに似給へる人を、三 に 侍 ふ。典、侍は、先帝の御時の人にて、かの宮にも親しう参り馴れたりければ、『stalesta の四の宮の、御かたちすぐれ給へる聞こえ高くおはします。母后世になくかしづき聞こえ給ふを、上 年月に添へて、(帝は)御息所の御事を思し忘るる折なし。慰むやと、然るべき人々を参らせ いはけなくおは

J											`
に答えよ。	現代語で簡潔に答えよ。	か。	「典侍」は、「先帝の四の宮」を、いつから知っていたのか。	いつから	を、	の四の宮	先帝	時」は、	線①「曲	 線	1
			に対する敬語) に 対		から②() から			1	5
			に対する敬語) に 対		から②() から		$\hat{}$	1	4
			に対する敬語) に 対		2) から ②		$\hat{}$	1	3
			に対する敬語) に 対		から②() から		$\hat{}$	1	2
			に対する敬語) に 対		から②() から		$\hat{}$	1	1
	似給へる人	カ	オ作者	典侍	I	四の宮	ウ	御息所	1	帝	ア
) ?	何回使ってもよい。)	[使っ	何回
(同じ記号を	①だれの、②だれに対する敬語か。次から選び、記号で答えよ。(同じ記号を	記	次から選び、	る敬語か。	に対す	② だ れ に	だれの、	1 1	線1~5は、	 線	
(「源氏物語」桐壺より)	(「源氏物語										

3 葉を書き抜いて答えよ。 ·線②「させ給へ」は、「二方向への敬語」である。だれとだれに対する敬語か。文章中の言

	 1	
し」は、だれに対して用いられる敬語か。文章中の言葉を書き抜いて答えし」と 〔	線③「奏:	
↑ だれに対して用いられる敬語か。文章中の言葉を書き抜いて答え と 〔	しは、	
して用いられる敬語か。文章中の言葉を書き抜いて答えと 【	 だれに対し	
文章中の言葉を書き抜いて答え	して用いられる敬語か。	٤
	文章中の言葉を書き抜いて答え	

1	10点×5
2	20点×1
3	20点×1
4	10点×1
得	点
	, ,,,,

£	名

演習 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

りをきびしく囲ひたりしこそ、②少しことさめて、この木なからましかばと覚えしか。 けるよと、あはれに見るほどに、かなたの庭に大きなる柑子の木の、枝もたわわになりたるが、まは なし。閼伽棚に菊、紅葉など折り散らしたる、さすがに住む人のあればなるべし。 Φかくてもあられ み分けて、心細く住みなしたる庵あり。木の葉に埋もるる懸樋のしづくならでは、 神無月のころ、栗栖野といふ所を過ぎて、ある山里に尋ね入ること侍りしに、遥かなる苔の道を踏 つゆおとなふもの

(「注	
徒然草	
第十	
一段よ	
'n	

1	この文章を二つの段落に分ける場合、どこで分かれるか。後半の初めの五字を抜き出して書け。
2	線①「かくてもあられけるよ」を、「かくても」の内容を具体的に明らかにして、現代語に訳せ。
3	――線②「少しことさめて」とあるが、それはなぜか。次から選び、記号で答えよ。
ア	周りが囲まれているので、柑子の木の見事さが失われてしまっていると感じたから。
1	大きな柑子の木が、菊や紅葉の美しい庭を観賞するのを妨げていると感じたから。
ウ	柑子の木が囲われていることに、庵の主がまだ物欲を捨てることができないことを感じたから。
エ	大きな柑子の木の実を見るにつけて、食欲にひかれる自分自身を思い知らされるように感じた

から。

1 25点×1

/100

2 50点×1 **3** 25点×1

点

氏 名

演習 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

出したりける。
いだった。このをとこきたりけり。「この戸あけたまへ」とのたたきけれど、けるに、このをとこきたりけり。「この戸あけたまへ」とのたたきけれど、 三年こざりければ、の待ちわびたりけるに、いとねむごろにいひける人に、今宵あはむとちぎりたり むかし、をとこ、片田舎にすみけり。をとこ、宮づかへしにとて、別れ惜しみて行きけるままに、 あけで、歌をなむよみて

あらたまの年の三年を待ちわびてただ今宵こそにひまくらすれ

といひだしたりければ、

梓弓真弓槻弓年をへてわがせしがごとうるはしみせよ。ができゅみまきみつきゅみ

といひて、去なむとしければ、女、

梓弓引けど引かねど昔より心は君によりにしものを

清水のある所に伏しにけり。そこなりける岩に、およびの血して書きつけける。 といひけれど、をとこかへりにけり。女、いとかなしくて、 しりにたちて追ひゆけど、え追ひつかで、

あひ思はで離れぬる人をとどめかねわが身は今ぞ消えはてぬめる

と書きて、そこにのたづらになりにけり。

2

3

(「伊勢物語」第二四段より)

20点×2 10点×1 10点×2 30点×1 得点	₹ 三首目の和歌から、女の気持ちを考えて、現代語で簡単に書け。	枕詞 かかる言葉	枕詞 かかる言葉	, 文章中の和歌から、枕詞とそれがかかる言葉の組み合わせを、二つ抜き出して書け。	ウ 罪を犯してしまった エ 男性と別れてしまった (ア することもなく過ごしていた イ 死んでしまった	✔ ――線③「いたづらになりけり」の意味を次から選び、記号で答えよ。	- ――線①・②の主語(動作主)を、文章中から抜き出して書け。	
100					$\overline{}$				

☆Sim 確認テストフ

氏	

名

「演 習」 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

身を使ふ。たゆからずしもあらねど、③人を従へ、人を顧みるよりやすし。もし歩くべきことあれば、身を奴婢とするにはしかず。いかが奴婢とするとならば、もしなすべきことあれば、すなはちおのが みづから歩む。苦しといへども、馬・鞍・牛・車と、心を悩ますにはしかず。今、 だしく、恩顧厚きを先とす。さらに、はぐくみあはれむと、安く静かなるとをば願はず。ただ、わが ほなるとをば愛せず。ただ、『糸竹・花月を友とせんにはしかじ。人の奴たるものは、賞罰はなはそれ、人の友とあるものは、富めるを尊み、『ねんごろなるを先とす。必ずしも情けあると、すな 一身をわかちて、

2 15		2)	1	1		対し	悩ま	ل ا	時は	ニっ
に 書け。 ―――――――――――――――――――――――――――――――――――	ウフ		ア	始		てい	す、	いかに	休めの	の 用 た
。線③「人を従へ、人を顧みるよりやすし」とあるが、それはどうすることか。現代語で簡単	詩歌	音頻		線①・②の意味として適切なものを、次から選び、記号で答えよ。		対していふにはあらず。ただ、わが身ひとつにとりて、昔今とをなぞらふるばかりなり。	悩ます、罪業なり。 のかが他の力を借るべき。	し。いかにいはんや、つねに歩き、つねに働くは養性なるべし。なんぞいたづらに休みをらん。人を	時は休めつ、まめなれば使ふ。使ふとても、たびたび過ぐさず。	二つの用をなす。手の奴、足の乗り物、よくわが心にかなへり。心、身の苦しみを知れれば、苦しむ
人を従		的に	心から仲のよい人	② Ø)		あらざ	<i>b</i> .	んや、	めなか	手の
化へ、	エ ~ 庭 糸	親切な	よい	思味と		。 た	いか	つね	れ ば 使	奴、
人を	庭先の草花	首人	人	して		だ、、	が他の	に歩	\$ °	足の
顧みる	草 花	ェ	1	適切な		わが自	力を	き、つ	使ふと	乗り物
より		いた	長年	もの		カひと	借る	ねに	こても	170、よ
やすり		わりら	自分を	を、 **		つに		働くは	たが	くわが
<u>ل</u> ع		いたわりや同情心の厚い人	長年自分を引きたててくれた人	次から		とりて	中略	養性	ひたび	か心に
ある		心の[たて	選び、		计		なる	過ぐ	かな
が、		厚い人	てくわ	記是		今とを	7	べし。		^
れは		人	た人	っで答		こなぞ	べてて	なん	もの	心
どう				えよ。		らふ	かか	ぞい	憂し	身の
する				0		るばか	やうの	たづら	とて*	苦した
ことか	2	1				かりな	楽し	っに休	小	みを知
··。 現					万方十	ŋ̈́	み、コ	:みを	を動	れれ
代語で					記		富める	らん。	かする	は、土
簡単	_	_			(「方丈記」より)		――すべて、かやうの楽しみ、富める人に	人を	もの憂しとても、心を動かすことな	自しむ

線4 「いかが他の力を借るべき」を、現代語に訳せ。

3

2 30点×1 3 30点×1 **得 点**

20点×2

名

氏

演
習
次の文音
文章を読んで、
読んで、
あとの問
問いに
こいに答えよ。

ままなるを、三月のうちに。なくなりて、又なり代りたるも、このかたはらに書きつけられたりし人 物につきて止まりたるを見れば、反故なり。とりあげて見れば、黄なる紙に、丹して、濃くうるはし まかりたりしに、いと暑かりしかば、この水の面に休みつつ見れば、河上の方より黄なる物流れ来て、 給ふなりけりと見給へし。 をさめたりしを、 べきにも、守なして、又添へて二人をなしたり。のあやし、あさましと思ひて、とりあげて、 く書かれたり。あやしくて見れば、来年なるべき国どもを、除目のごとみな書きて、この国来年あく 富士河といふは、富士の山より落ちたる水なり。その国の人の出でて語るやう、「一年ごろ、物に為しばない。 かかる事なむありし。来年の司召などは、今年。この山に、そこばくの神々集まりて、 かへる年の司召に、この文に書かれたりし、一つたがはず、この国の守とありし めづらかなる事にさぶらふ」と語る。 乾して、

(「更級日記」	
記 より)	

初めと終わりの五字を書き抜け。

-線1「かかる事」とは、どのようなことか。

それが説明されている箇所を文章中から探し、

	初 め
=線2「この山」とは、どこのことか。文章中から抜き出して書け。	
から抜き出して書け。	終わり

2

ア 国司として二人の名前が書かれていたから。 線①「あやし、あさましと思ひて」とあるが、なぜそう思ったのか。 次から選び記号で答えよ。

1 朝廷が発する官吏任免状である除目の紙が流れてきたから。

エゥ 紙に書かれていたとおりの人が国司になったから。 黄色と赤の見たこともないような紙が流れてきたから。

――線②「なくなりて」の主語(動作主)を、文章中から抜き出して書け。	4	
)主語(動作主)を、	なくなりて」	
<u>を</u> 、	の主語	
	$\overline{}$	

25点×1
25点×1
25点×1
25占×1

	100
得	身 点
4	25点×1
3	25点×1
2	25点×1

古文の読解 確認テスト 9 高校ゼミ サポート se-ect II

-	4

演
習
次の文章を読んで、
あとの問いに答えた

たがひのありて、いつまでも、その誤りをえ悟ら__」ことあるなり。	えたることなりと思ひて、なほざりに見過ぐせば、すべて細かなる意味も知られず、また多く心得	は、いといとわろし。ただよく聞こえたるところに心をつけて、深く味はふべきなり。こはよく聞
こえたることなりと思ひて、なほざりに見過ぐせば、すべて細かなる意味も知られず、また多く心得るは、いといとわろし。ただよく聞こえたるところに心をつけて、深く味はふべきなり。こはよく聞	るは、いといとわろし。ただよく聞こえたるところに心をつけて、深く味はふべきなり。こはよく聞	
こえたることなりと思ひて、なほざりに見過ぐせば、すべて細かなる意味も知られず、また多く心得るは、いといとわろし。ただよく聞こえたるところに心をつけて、深く味はふべきなり。こはよく聞こころは、まづそのままにて過ぐすぞよき。殊に世に難きことにしたるふしぶしを、まづ知らむとす	いといとわろし。ただよく聞こえたるところに心をつけて、深く味はふべきなり。こはよく聞こころは、まづそのままにて過ぐすぞよき。殊に世に難きことにしたるふしぶしを、まづ知らむとす	ところは、まづそのままにて過ぐすぞよき。殊に世に難きことにしたるふしぶしを、まづ知らむとす
こえたることなりと思ひて、なほざりに見過ぐせば、すべて細かなる意味も知られず、また多く心得るは、いといとわろし。ただよく聞こえたるところに心をつけて、深く味はふべきなり。こはよく聞こころは、まづそのままにて過ぐすぞよき。殊に世に難きことにしたるふしぶしを、まづ知らむとす我の心得がたきところを、初めより、一々に解せむとしては、滞りて、進まぬことあれば、聞こえぬ	のは、いといとわろし。ただよく聞こえたるところに心をつけて、深く味はふべきなり。こはよく聞こころは、まづそのままにて過ぐすぞよき。殊に世に難きことにしたるふしぶしを、まづ知らむとす我の心得がたきところを、初めより、一々に解せむとしては、滞りて、進まぬことあれば、聞こえぬ	ところは、まづそのままにて過ぐすぞよき。殊に世に難きことにしたるふしぶしを、まづ知らむとす義の心得がたきところを、初めより、一々に解せむとしては、滞りて、進まぬことあれば、聞こえぬ
こえたることなりと思ひて、なほざりに見過ぐせば、すべて細かなる意味も知られず、また多く心得るは、いといとわろし。ただよく聞こえたるところに心をつけて、深く味はふべきなり。こはよく聞こころは、まづそのままにて過ぐすぞよき。殊に世に難きことにしたるふしぶしを、まづ知らむとす我の心得がたきところを、初めより、一々に解せむとしては、滞りて、進まぬことあれば、聞こえぬ残遍も読むうちには、初めに聞こえざりしことも、そろそろと聞こゆるやうになりゆくものなり。文	oは、いといとわろし。ただよく聞こえたるところに心をつけて、深く味はふべきなり。こはよく聞こころは、まづそのままにて過ぐすぞよき。殊に世に難きことにしたるふしぶしを、まづ知らむとす我の心得がたきところを、初めより、一々に解せむとしては、滞りて、進まぬことあれば、聞こえぬ蔑遍も読むうちには、初めに聞こえざりしことも、そろそろと聞こゆるやうになりゆくものなり。文	ところは、まづそのままにて過ぐすぞよき。殊に世に難きことにしたるふしぶしを、まづ知らむとす義の心得がたきところを、初めより、一々に解せむとしては、滞りて、進まぬことあれば、聞こえぬ幾遍も読むうちには、初めに聞こえざりしことも、そろそろと聞こゆるやうになりゆくものなり。文
こえたることなりと思ひて、なほざりに見過ぐせば、すべて細かなる意味も知られず、また多く心得るは、いといとわろし。ただよく聞こえたるところに心をつけて、深く味はふべきなり。こはよく聞えの心得がたきところを、初めより、一々に解せむとしては、滞りて、進まぬことあれば、聞こえぬ戍遍も読むうちには、初めに聞こえざりしことも、そろそろと聞こゆるやうになりゆくものなり。文べらさらと見て、他の書に移り、これやかれやと読みては、またさきに読みたる書へ立ち返りつつ、ごらさらと見て、他の書に移り、これやかれやと読みては、またさきに読みたる書へ立ち返りつつ、	 いといとわろし。ただよく聞こえたるところに心をつけて、深く味はふべきなり。こはよく聞こころは、まづそのままにて過ぐすぞよき。殊に世に難きことにしたるふしぶしを、まづ知らむとす我の心得がたきところを、初めより、一々に解せむとしては、滞りて、進まぬことあれば、聞こえぬ残遍も読むうちには、初めに聞こえざりしことも、そろそろと聞こゆるやうになりゆくものなり。文ごらさらと見て、他の書に移り、これやかれやと読みては、またさきに読みたる書へ立ち返りつつ、ごらさらと見て、他の書に移り、これやかれやと読みては、またさきに読みたる書へ立ち返りつつ、 	ところは、まづそのままにて過ぐすぞよき。殊に世に難きことにしたるふしぶしを、まづ知らむとす義の心得がたきところを、初めより、一々に解せむとしては、滞りて、進まぬことあれば、聞こえぬ幾遍も読むうちには、初めに聞こえざりしことも、そろそろと聞こゆるやうになりゆくものなり。文さらさらと見て、他の書に移り、これやかれやと読みては、またさきに読みたる書へ立ち返りつつ、

ア 耳に入る イ 世間に知られる ウ 理解される エ 申し上げる
れているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。――線部「聞こえ」とあるが、この文章では、「聞こゆ」という言葉はどのような意味で用いら
この文章を二つに分ける場合、どこで分かれるか。後半の初めの五字を抜き出して書け。
\frac{1}{2}
アーざん イーるる ウーバー エーざる こう イー るる こう カー・ エーざる ここ これの 一
(「うひ山ぶみ」より)

2

1 20点×1 **2** 20点×1

2	20年~1
3	20点×1
4	40点×1
得	点
	/100

高校ゼミ サポート

古文の読解 確認テスト

|--|

演習 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

砂の夜ふけて、ものよりまうで来けるついでに見入れければ、もとありし前栽もいとしげく荒れたり けるを見て、はやくそこに侍りければ、昔を思ひやりてよみける 藤原利基朝臣の右近中将にて住み侍りける曹司の、の身まかりてのち、人も住まずなりにけるに、

御春有助

(「古今和歌集」より)

君が植ゑしひとむら。薄虫の音のしげき野辺ともなりにけるかな

アー転居して イー死んで ウー流刑になって	. '	線①「身	―線①「身まかりて」の意味を、次から選び記号で答えよ。	思味を、	次から選び記	号で答う	よ。
	•	転居して	イ 死んで	ウ	流刑になって		エ 退去して
		!)		·		Ţ) Î

ウ 1 ア I 文章中の和歌には、掛詞が用いられている。 月天心貧しき町を通りけり 終夜秋風聞くや裏の山 荒海や佐渡に横たふ天の川 下京や雪つむ上のよるの雨ー級②「秋の夜」の情景を試 曽良 蕪村 芭蕉 凡兆 ①その言葉を抜き出して、 ②どのような意味とどの

2 1 ような意味が掛けられているのかを説明せよ。 意味…… 掛詞……

1	15	点×1
2	10)点×4
3	115	点×1
	230)点×1
	得	点
	得	<u>点</u> /
	得 	点 /100

南京 確認テスト 1

|--|

[演 習] 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

遠くゐて、「にくし。さのたまはば、今日は立たじ。」とのたまひしこそ、いかで聞きつけ給ふらんと、 そかにのいひ入るるを、その人だにえ聞きつけで、「なにとか、なにとか。」と耳をかたぶけ来るに、 「この中将に扇の絵のこと言へ。」と®ささめけば、「いま、かの君の立ち給ひなんにを。」と、いとみ あさましかりしか。 職の御曹司の西面に住みしころ、大殿の新中将、宿直にてのものなどいひしに、そばにある人の、とは、またぎらし、によましています。というなど、大蔵卿ばかり耳とき人はなし。まことに蚊のまつげの落つるをも聞きつけ給ひつべうこそありしか。 大殿の新中将、宿直にてのものなどいひしに、そばにある人の、

$\overline{}$
$\overline{}$
枕
赿
平
子
J
_
第
714
_
力.
ハ
段
ょ
n

2 推量の助動詞「べし」のウ音便を、文章中から抜き出して書け。

べう

3 作者は、 大蔵卿という人物をどのように評しているか。 現代語で簡単に書け。

どんな小さな出来事でも、すぐに聞きつけて来る人。

1 15点×4 2 20点×1

3 20点×1 得 点

名 氏

演習 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

とこそ仰せられけり。まことにこそのさはおはしますめれ。 ものも 宣 はぬに、この入道殿は、いと若くおはします御身にて、「2影をば踏まで、 ければ、中の関白殿・粟田殿などは、「げに、②さもとや思すらむ」と、恥づかしげなる御けしきにて、 らやましくもあるかな。 四条大納言の、かく何事もすぐれ、めでたくおはしますを、大入道殿、「いかでか、 わが子どもの、 影だに踏むべくもあらぬこそ、 内大臣殿をだに近くて見奉り給はぬよ。 口惜しけれ」と申させ給ひ つらをやは踏まぬ かからむ。う

(「大鏡」道長伝より)

線①・②の指示語は、 何を指しているか。 文章中から抜き出して書け。

1 ぬこそ、口惜しけれ いかでか、かからむ。うらやましくもあるかな。わが子どもの、影だに踏むべくもあら

2 影をば踏まで、 つらをやは踏まぬ

線1「影だに踏むべくもあらぬ」を現代語に訳せ。

2

影(影法師)さえ踏めそうにない(影すら踏むことができない)

号で答えよ。 =線2「影をば踏まで、 つらをやは踏まぬ」の意味として、 最も適当なものを次から選び、 記

ア 影法師は踏まないが、 上位に立って面目はつぶしてやる。

影法師は踏んでやるし、上位に立って面目もつぶしてやる。

ウ 影法師は踏まないし、 上位に立って面目をつぶすこともしない。

エ 影法師は踏めないし、 上位に立って面目をつぶすこともできないだろう。

ア

25点×2

30点×1 3 20点×1 点 **/**100

氏	名

演習 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

必ずつかまつることに候ふと言ふ。 そのことに候ふ。目くるまき、枝危ふきほどは、己が恐れはべれば申さず。過ちは、安き所になりて、 はべりしを、かばかりになりては、飛び降るとも降りなむ。いかにかくは言ふぞと申しはべりしかば、 どは言ふこともなくて、降るるときに、軒長ばかりになりて、過ちすな。心して降りよと言葉をかけ 高名の木登りといひし男、人を掟てて、高き木に登せて、 梢 を切らせしに、いと危ふく見えしほ

(「徒然草」第一○九段より)

線部「梢を切らせし」の主語 (動作主) を、 文章中から抜き出して書け。

高名の木登り(高名の木登りといひし男)

2 文章中から会話文になっている部分を三か所探し、その初めと終わりの五字を抜き出して書け。

初 め …	初 め 	初 め 		
そのことに	かばかりに	過ちすな。		
終わり	終わり	終わり		
とに候ふ。	くは言ふぞ	して降りよ		

3 ア この文章の趣旨として最も適当な四字熟語を次から選び、記号で答えよ。

1 刻苦勉励 油断大敵 I 愛別離苦

ゥ

20点×1

20点×3 20点×1 点 **/**100

|--|

演習 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

ごろに5聞こえさせ給ひけり。 世給へりけれ。ありがたき御かたち人になむ。」と。奏しけるに、まことにやと御心とまりて、ねん 代の宮仕へに伝はりぬるに、え見るかつけぬを、后の宮の姫宮こそ、いとよう覚えて生ひ出でのさ に 侍 ふ。典、侍は、先帝の御時の人にて、かの宮にも親しう参り馴れたりければ、 しましし時より見奉り、今もほの見。奉りて、「亡せ。給ひにし御息所の御かたちに似給へる人を、三 の四の宮の、御かたちすぐれ給へる聞こえ高くおはします。母后世になくかしづき聞こえ給ふを、上 年月に添へて、(帝は)御息所の御事を思し忘るる折なし。慰むやと、然るべき人々を参らせ いはけなくおは

	は、「先帝の四の宮 エ 典侍 オ 作者 カ)から②(ア)に対する敬語)から②(カ)に対する敬語)から②(カ)に対する敬語)から②(ア)に対する敬語)から②(ア)に対する敬語				:	;		1) ($\overline{}$
5 ① (オ)から② (ア)に対する敬語 4 ① (エ)から② (ア)に対する敬語 4 ① (エ)から② (ア)に対する敬語 から② (ア)に対する敬語 力)に対する敬語	ウ 四の宮 エ 典侍 オ 作者 力)から②(ウ)に対する敬語)から②(カ)に対する敬語)から②(カ)に対する敬語	①だれの、②だれに対する敬語か。次から選び、 ①がら②(ア)に対する敬語)から②(ア)に対する敬語)から②(カ)に対する敬語)から②(カ)に対する敬語	か。現代語で簡潔に答えよ。	ていたの	いつから知っ	を、	「先帝の四の宮」	侍」は、	-線①「曲	
4 ① (ウ 四の宮 エ 典侍 オ 作者 カ から② (ウ)に対する敬語 から② (イ)に対する敬語 カ カ	 ①だれの、②だれに対する敬語か。次から選び、 〕から②(ア)に対する敬語)から②(ア)に対する敬語)から②(イ)に対する敬語 		る敬語)に対す	ア) から② (オ	1	5
3 ① (オ)から② (ア)に対する敬語 1 ① (オ)から② (ア)に対する敬語 から② (ア)に対する敬語 カ)から②(イ)に対する敬語)から②(ウ)に対する敬語 カ カ	①だれの、②だれに対する敬語か。次から選び、①から②(ウ)に対する敬語)から②(ウ)に対する敬語		る敬語)に対す	カ	から②(I	1	4
2 ① (オ)から② (ウ)に対する敬語 1 ① (オ)から② (ア)に対する敬語 カ (カ) から② (ア) に対する敬語)から②(ウ)に対する敬語 がら②(ア)に対する敬語 力 四の宮 エ 典侍 オ 作者 カ	①だれの、②だれに対する敬語か。次から選び、 ①がら②(ア)に対する敬語・		る敬語)に対す	1	から②(I	1)	3
1 ① (オ) から② (ア) に対する敬語市 イ 御息所 ウ 四の宮 エ 典侍 オ 作者 カ)から② (ア)に対する敬語が ウ 四の宮 エ 典侍 オ 作者 カ ()	① から② (ア) に対する敬語② だれに対する敬語か。次から選び、		る敬語)に対す	ウ	から②(オ	1)	2
帝 イ 御息所 ウ 四の宮 エ 典侍 オ 作者 カ	一 ウ 四の宮 エ 典侍 オ 作者 カ	(1) がれの、②だれに対する敬語か。次から選び、		る敬語)に対す	ア	から②(オ	1)	1
	何回使ってもよい。)	①だれの、②だれに対する敬語か。次から選び、	カ 似給へる人					御息所		-

3 葉を書き抜いて答えよ。 ·線②「させ給へ」は、「二方向への敬語」である。だれとだれに対する敬語か。 文章中の言

四の宮がまだ幼かったころから。

四の宮 線③「奏し」は、 だれに対して用いられる敬語か。文章中の言葉を書き抜いて答えよ。

1	10点×5
2	20点×1
3	20点×1
4	10点×1
得	点
	/
	/400

氏 名

演習 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

りをきびしく囲ひたりしこそ、②少しことさめて、この木なからましかばと覚えしか。 なし。閼伽棚に菊、紅葉など折り散らしたる、さすがに住む人のあればなるべし。 ^Φかくてもあられ けるよと、あはれに見るほどに、 み分けて、 神無月のころ、栗栖野といふ所を過ぎて、ある山里に尋ね入ること侍りしに、遥かなる苔の道を踏 心細く住みなしたる庵あり。木の葉に埋もるる懸樋のしづくならでは、 かなたの庭に大きなる柑子の木の、 枝もたわわになりたるが、まは つゆおとなふもの

(「徒然草」第十一段より)

この文章を二つの段落に分ける場合、どこで分かれるか。 後半の初めの五字を抜き出して書け。

かくてもあ

2 線①「かくてもあられけるよ」を、「かくても」の内容を具体的に明らかにして、現代語に訳せ。

きることができるものなのだなあ。 世俗の世界を離れて、だれも訪れる人もない山里に、一人で庵を構え、仏に仕えながら生

- 線②「少しことさめて」とあるが、それはなぜか。次から選び、記号で答えよ。
- ア 問りが囲まれているので、柑子の木の見事さが失われてしまっていると感じたから。
- 1 大きな柑子の木が、菊や紅葉の美しい庭を観賞するのを妨げていると感じたから。
- エ ウ 大きな柑子の木の実を見るにつけて、 柑子の木が囲われていることに、庵の主がまだ物欲を捨てることができないことを感じたから。 食欲にひかれる自分自身を思い知らされるように感じた

から。

ウ

3 25点×1 **/**100

1 25点×1 2 50点×1

☆の読解確認テスト
6

名

氏

|演||習||次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

出したりける。
いだった。このをとこきたりけり。「この戸あけたまへ」とのたたきけれど、けるに、このをとこきたりけり。「この戸あけたまへ」とのたたきけれど、 三年こざりければ、の待ちわびたりけるに、 むかし、をとこ、 片田舎にすみけり。をとこ、宮づかへしにとて、別れ惜しみて行きけるままに、 いとねむごろにいひける人に、 あけで、 今宵あはむとちぎりたり 歌をなむよみて

あらたまの年の三年を待ちわびてただ今宵こそにひまくらすれ

といひだしたりければ、

梓弓真弓槻弓年をへてわがせしがごとうるはしみせよ。タマッルルム ホ ๒タス゚ロルム

といひて、去なむとしければ、女、

梓弓引けど引かねど昔より心は君によりにしものを

といひけれど、をとこかへりにけり。女、いとかなしくて、 しりにたちて追ひゆけど、 え追ひつかで、

清水のある所に伏しにけり。そこなりける岩に、およびの血して書きつけける。

あひ思はで離れぬる人をとどめかねわが身は今ぞ消えはてぬめる

と書きて、そこにのたづらになりにけり。

(「伊勢物語」第二四段より)

枕 詞 ——	枕詞	3 文章中	ウ罪を	アする	2 ——線	1 ① — 線
梓弓	あらたまの	の和歌から、枕詞とそれがな	罪を犯してしまった	することもなく過ごしていた	③「いたづらになりけり」の	女の主語(動作主)を、
	かかる言葉 年	文章中の和歌から、枕詞とそれがかかる言葉の組み合わせを、二つ抜き出して書け。	エ 男性と別れてしまった	イ 死んでしまった	線③「いたづらになりけり」の意味を次から選び、記号で答えよ。	文章中から抜き出して書け。
引く(引け)		山して書け。	^ 1			
			-			

4

三首目の和歌から、

女の気持ちを考えて、

現代語で簡単に書け。

ずっと自分のそばにいてほしかった。

20点×2

10点×1 10点×2 30点×1

/100

2

男が宮仕えして出世することよりも、

名 氏

演習 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

悩ます、罪業なり。のいかが他の力を借るべき。 二つの用をなす。手の奴、足の乗り物、よくわが心にかなへり。心、身の苦しみを知れれば、苦しむ 身を奴婢とするにはしかず。 だしく、恩顧厚きを先とす。さらに、はぐくみあはれむと、安く静かなるとをば願はず。ただ、わが 対していふにはあらず。ただ、わが身ひとつにとりて、昔今とをなぞらふるばかりなり。 し。いかにいはんや、つねに歩き、つねに働くは養性なるべし。なんぞいたづらに休みをらん。人を 時は休めつ、まめなれば使ふ。使ふとても、たびたび過ぐさず。 みづから歩む。苦しといへども、馬・鞍・牛・車と、心を悩ますにはしかず。今、一身をわかちて、 身を使ふ。たゆからずしもあらねど、の人を従へ、人を顧みるよりやすし。もし歩くべきことあれば、 ほなるとをば愛せず。ただ、『糸竹・花月を友とせんにはしかじ。人の奴たるものは、 それ、人の友とあるものは、富めるを尊み、のねんごろなるを先とす。必ずしも情けあると、すな いかが奴婢とするとならば、もしなすべきことあれば、すなはちおのがいかが奴婢とするとならば、もしなすべきことあれば、すなはちおのが 中略 すべて、 もの憂しとても、心を動かすことな かやうの楽しみ、富める人に 賞罰はなは

(「方丈記」より)

線①・②の意味として適切なものを、次から選び、記号で答えよ。

1 ア 心から仲のよい人 1 長年自分を引きたててくれた人

ウ 物質的に親切な人

エ いたわりや同情心の厚い人

1 ウ

2 ア 音楽 1

詩歌 エ 庭先の草花

ア

2

に書け。 -線③「人を従へ、人を顧みるよりやすし」とあるが、それはどうすることか。現代語で簡単

自分の体を使って何かをすること。

線④「いかが他の力を借るべき」を、現代語に訳せ。

3

なぜ他の人の力を借りることがあろうか、(いや、ありはしない。)

20点×2 30点×1

30点×1 **/**100

名 氏

演習 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

ままなるを、三月のうちに@なくなりて、又なり代りたるも、このかたはらに書きつけられたりし人 物につきて止まりたるを見れば、反故なり。とりあげて見れば、黄なる紙に、丹して、濃くうるはし まかりたりしに、 をさめたりしを、 給ふなりけりと見給へし。 べきにも、守なして、又添へて二人をなしたり。のあやし、あさましと思ひて、 く書かれたり。あやしくて見れば、来年なるべき国どもを、除目のごとみな書きて、この国来年あく 富士河といふは、富士の山より落ちたる水なり。その国の人の出でて語るやう、「一年ごろ、物にメーサー かかる事なむありし。来年の司召などは、今年この山に、そこばくの神々集まりて、ない いと暑かりしかば、この水の面に休みつつ見れば、河上の方より黄なる物流れ来て、 かへる年の司召に、この文に書かれたりし、一つたがはず、この国の守とありし めづらかなる事にさぶらふ」と語る。 とりあげて、 乾して、

(「更級日記」より)

初めと終わりの五字を書き抜け。 線1「かかる事」とは、どのようなことか。それが説明されている箇所を文章中から探し、

初 め 	
一年ごろ、	
終わり	
し人なり。	

2 線2「この山」とは、どこのことか。 文章中から抜き出して書け。

富士の山

- 線①「あやし、あさましと思ひて」とあるが、なぜそう思ったのか。 次から選び記号で答えよ。
- ア 国司として二人の名前が書かれていたから。
- 1 朝廷が発する官吏任免状である除目の紙が流れてきたから。
- ウ 黄色と赤の見たこともないような紙が流れてきたから。
- エ 紙に書かれていたとおりの人が国司になったから。

ア

線②「なくなりて」の主語 (動作主)を、 文章中から抜き出して書け。

	玉刀計		
			_

8		┶
	25点	$\times 1$

2 得

 $\times 1$ $\times 1$ $\times 1$ 点

高校ゼミ サポート s e l e c t II

古文の読解 確認テスト 9

	1	2

氏

演
??
次の文章を読んで、
で
,
•
、あとの問
、あとの問い
、あとの問い
、あとの問い
、あとの問

幾遍も読むうちには、初めに聞こえざりしことも、そろそろと聞こゆるやうになりゆくものなり。文さらさらと見て、他の書に移り、これやかれやと読みては、またさきに読みたる書へ立ち返りつつ、いづれの書を読むとても、初心のほどは、片端より文義を解せむとはすべからず。まづたいていに
さらさらと見て、他の書に移り、これやかれやと読みては、またさきに読みたる書へ立ち返りつつ、
幾遍も読むうちには、初めに聞こえざりしことも、そろそろと聞こゆるやうになりゆくものなり。文
義の心得がたきところを、初めより、一々に解せむとしては、滞りて、進まぬことあれば、聞こえぬ
ところは、まづそのままにて過ぐすぞよき。殊に世に難きことにしたるふしぶしを、まづ知らむとす
るは、いといとわろし。ただよく聞こえたるところに心をつけて、深く味はふべきなり。こはよく聞
こえたることなりと思ひて、なほざりに見過ぐせば、すべて細かなる意味も知られず、また多く心得
たがひのありて、いつまでも、その誤りをえ悟ら「ことあるなり。

	_	1
)	
	アざれ	
	イるる	に入る言葉として最
	ウ	も適火
	ウれし	て最も適当なものを次から選び、
	エ	を次から
	エざる	ら選び、
		記号で答えよ。
$\overline{}$		
I		
\smile		

(「うひ山ぶみ」より)

2 この文章を二つに分ける場合、どこで分かれるか。後半の初めの五字を抜き出して書け。

文義の心得

3

ア れているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。 耳に入る 1 世間に知られる ウ 理解される エ 申し上げる

線部「聞こえ」とあるが、この文章では、「聞こゆ」という言葉はどのような意味で用いら

ウ

4 この文章で、筆者は、どのような読書の方法を勧めているか。現代語を用いて、簡単に説明せよ。

気をつけて読むべきである。 文章の細かな言葉にこだわらず、多くの本を読み、すでに知っていると思っていることに

1 20点×1

2	20,	点×1
3	20,	点×1
4	40,	点×1
1	等	点
		/100

高校ゼミ サポート s e I e c t II

古文の読解 確認テスト

|--|

演習 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

砂の夜ふけて、ものよりまうで来けるついでに見入れければ、もとありし前栽もいとしげく荒れたり けるを見て、はやくそこに侍りければ、昔を思ひやりてよみける 藤原利基朝臣の右近中将にて住み侍りける曹司の、の身まかりてのち、人も住まずなりにけるに、

御春有助

(「古今和歌集」より)

君が植ゑしひとむら。薄虫の音のしげき野辺ともなりにけるかな

死んで ウ 流刑になって エ 退去して

ア

転居して

1

線①「身まかりて」の意味を、

次から選び記号で答えよ。

線②「秋の夜」の情景を詠んだ俳句には○、 他の情景を詠んだ俳句には×の記号で答えよ。

ア 荒海や佐渡に横たふ天の川 京や雪つむ上のよるの雨

凡兆

月天心貧しき町を通りけり 終夜秋風聞くや裏の山

ウ

I

芭蕉

 \bigcirc \bigcirc \bigcirc \times

曽 蕪良 村

ような意味が掛けられているのかを説明せよ。 文章中の和歌には、掛詞が用いられている。 ①その言葉を抜き出して、 ②どのような意味とどの

1 掛詞……

しげき

意味…… 薄が茂っているという意味の「しげし」と、

虫がしきりに鳴いているという意

2

味の「しげし」が掛けられている。

1 15点×1 **2** 10点×4 2 ①15占~1

②30点×1		
得	点	
	100	